

2012（平成 24）年度
武蔵大学 FD 活動報告書

武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント実施委員会編

2012 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

武蔵大学長 清水 敦 (FD 委員長)

グローバル化の進展をはじめとして社会が大きく変化しつつある現在、この社会を担う人々には以前にもまして高い知性や能力が求められています。他方、18 歳人口に占める大学進学者の割合が高まり大学のユニバーサル化の時代を迎えているとともに、大学進学者の質の変化や多様化も進んでいます。こうしたなかで、これからの社会を担う若い人々をいかに教育し育成していくかという大きな問題が大学に問われています。

大学教育の改革は多面的に取り組むべき課題ですが、いうまでもなく基本となるのは授業等を通じて行われる教育の質の向上に他なりません。そのためには教員一人ひとりが各々授業方法の改善等に取り組むだけでなく、大学における教育全体の現状を的確に把握し、問題の所在を明確にして有効な方策を着実に実施する組織的な取り組みが不可欠となります。ファカルティ・ディベロップメント (FD) の組織的展開を行う重要性はますます高まっているといえます。

本学では、2000 年から学生の授業評価アンケートを実施するとともに、講演会等の活動を従来から行ってきました。教育の改善は不断に取り組むべき課題であり、FD 活動も継続して着実に実施されるべきものであるといえます。その一方で、FD 活動自身の成果を点検し、これまでの活動の在り方を見直して新しい取組を積極的に行っていくことも必要となります。そしてそのさい、他大学の活動を調べてこれに学ぶとともに、本学の教育の目標や特色を踏まえながら本学独自の FD 活動の在り方を模索していくことも重要となります。

この報告書には、2012 年度における授業評価アンケートの分析や FD 研修会の記録のほかに、本学の創造的な教育実践の事例や、他大学の FD 活動等の調査報告も掲載されています。

この報告書のこうした内容をご確認いただき、本学における FD 活動の推進と教育の質向上のためにご活用いただくようお願い致します。

2012 年度活動報告

西村 淳子 (2012 年度 FD 実施委員長)

近年、日本の大学は教育機関としての能力向上を図り、研究と教育の調和を実現することを強く求められています。文部科学省や大学基準協会が求めるFD活動とは、教育活動における教員の能力向上、大学の教育力向上を目的とする活動をいいます。

「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」

中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申（平成17年1月）

本学のFD活動は、授業評価アンケートという形で始まりました。授業評価アンケートはすでに10年以上改良を重ねて実施しております。また、近年、FD活動の実施体制が急速に整備されました。

- 1999年 文部省による「FDの努力義務化」
- 2000年 武蔵大学「授業評価アンケート」を経済学部で実施。その後人文学部、社会学部も順次開始し、2009年以後は3学部統一の実施で現在に至る
- 2008年 文部科学省による「FDの義務化」
- 2009年 「武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」制定
- 2011年 「武蔵大学『学生による授業評価アンケート』取扱内規」施行
- 同年 「武蔵大学におけるFD活動の基本方針と課題」の策定
- 同年 『武蔵大学FD活動報告書』の刊行、現在に至る

上記のような規程、内規、報告書の作成は武蔵大学のFD活動にとって重要な意味をもっています。実践の中での試行錯誤が歴史として記録され、継承、発展のための土台となるからです。

歴代委員の築いてこられたこうしたFD実施体制のもと、2012年度のFD実施委員会がスタートしました。しかし、本年度は委員長をはじめ、委員の3分の2が新委員となりました。そこで、本年度のFD実施委員会は、従来の活動に大きな変更を加えることなく、状況に応じたマイナーチェンジをしながらこれを実施するという方針を立てました。これまでの武蔵大学のFD活動とは、2010年度のFD実施委員会の策定した「武蔵大学におけるFD活動の基本方針と課題」において、「教育活動改善の取り組み」と定義されています。そして、その内実は、「授業評価アンケートや研修会という限定的な現象でなく、教育活動改善の総体をFDとして定義する。武蔵大学の個性に即した特徴的な活動を創造する」とされています。

(『2010年度武蔵大学FD活動報告書』 p. 1)

その結果、本年度実施したFD活動は以下のようなものでした。

①授業評価アンケート：従来の方法で実施

- ・ アンケートの質問項目を再検討し、変更案を作成した。
- ・ 教員を対象に授業評価アンケートのあり方について意見を聴取した。

②FD研修会：武蔵大学の特徴を活かした形に改良

- ・ 第1回FD研修会（「授業改善の取り組み『拝見 となりの授業実践』」）は、学内3学部3組、4名の教員が授業改善の試みを発表、意見交換を行った。
- ・ 第2回FD研修会は、FDフォーラムとして「学生と共に考える授業改善」をテーマに、3学部6名の学生が武蔵大学授業改善案を発表し、意見交換を行った。
- ・ 第3回FD研修会は、FD調査員（新宅広二氏）の報告会（従来はFD委員、FD実施委員会にて実施）として一般教員に公開した。

③教育改善ツールの開発

- ・ 武蔵社会学会の協力を得て、『ゼミで学ぶスタディスキル』を全教員に配布した。

④FD調査員を中心に他大学のFD活動を調査、同時に、学内のFD資源の有効活用を検討した。

⑤特別奨学生レポート、卒業生アンケート等、学生の声を集めた学内情報を要約し、全教員に配布した。

⑥FD活動報告書を作成した。

⑦本年度の新たな試みとして、FD活動報告を本学Webサイトにて公開した。「授業評価アンケート」の実施プロセスと分析結果も含まれる。

⑧大学院FD活動に関しては、院生とFD委員、大学院教務委員などの教員との懇談会を実施した。

このような活動を実施しつつ、FD活動のあるべき姿について話し合いました。そして、武蔵大学のFD実施体制は、学生の教育という観点から練り上げられていることを再確認しました。今後とも、基本方針を引き継ぎ、これまで以上に有意義なFD活動を展開すべく努力を重ねていく所存です。本来少人数教育を旨とする武蔵大学の質の高い教育がFD活動を通じて、今まで以上に武蔵大学全体の共有財産となり、学生に還元されることを心から願っております。